

日本患者・家族団体協議会

9月
1987

SSKOの 仲間 No.8

SSKO

〒161 東京都新宿区下落合3-15-29

全腎協内

☎03(952)5340 / FAX 03(953)1750

購読料 1部300円(年間1,500円送料込)

患者の願いを予算に

厚生省に難病対策など要望

各省庁が八月末に大蔵省に対して行なう概算要求に関連して、予算編成の作業が大詰めになってきた七月二十八日、JPC（日本患者・家族団体協議会）では六十三年度厚生省概算要求について「患

者の願いを予算に」と厚生省に申し入れを行いました（写真）。

この日の要請行動には古川幹事（日患同盟）をはじめクロロキン、心臓病、ス全協、全交災、全肝協、パーキンソン、全腎協の各団体代表ら八人が参加しました。

厚生大臣室と厚生省結核難病感染症課をたずねた代表らは、「肝臓病など公費負担制度のない病気は医療費を自己負担しなければならず、そのため治療を途中であきらめる人も多い。早期対策を切実に望む」「末端の地方自治体で意識的に福祉施策を適用させない動きがある。これは国庫補助金の削減など福祉予算を削っていることの反映である」「内部障害者への鉄道運賃などの障害者割引制度の適用は患者が医療を受けるために必要なものである」など患者・家族の実態を訴え、①社会保障予算

の大幅増額②特定疾患治療研究事業など医療費公費負担の対象拡大と研究費の増額③結核、精神の公費医療制度の公費優先の存続④障害者施策の拡大に関わる予算の増額⑤労災補償法上の「症状固定Ⅱ治療者」の完治までの医療保険給付⑥鉄道運賃などの障害者割引制度の内部障害者への適用など十一項目の要請書を提出しました。

厚生大臣が国会出席のため代わって応対した大臣付野山氏は「国民の健康は国の基本である。大臣も厚生省関係予算の大幅増額に熱心であり、厚生省が自ら予算を減らすことはない。要望のあったことは大臣によく伝え、大蔵省との折衝に役立てたい」と回答しました。また、結核難病感染症課長草刈氏は「特定疾患治療研究事業の対象拡大と研究費の増額のために全力をつくす。特に希少難病に研究の光を与え、全国的な制度として整備し、今後とも難病対策を重視していきたい」と回答しました。JPCでは引き続き大蔵省などへの要請を行なうことを計画しています。



患者の希望をのせて 北海道難病連が全道集会

(釧路)

エトピリカ号が走った！

30年ぶりで汽車に：

北海道難病連は八月八日から八月十日、道東の釧路市で第十四回全道集会を開催しました。

三日間にわたって行われたこの集会では、初日の八月七日、札幌、函館、旭川の道内各駅から「希望列車エトピリカ号」と名付けた列車を走らせ、追分、新得の駅で連結、八両編成で、患者・家族など約五百人を乗せて一路、釧路に向いました。

列車のなかでは、何年かぶりに再会したことを喜びあう姿がいたるところでみられ、なかには「三十年ぶりに汽車に乗った」人や「汽車に乗



さあ釧路へ！
エトピリカ号が出発

りたくても階段やトイレが心配で乗れなかった」人など、苦しい闘病生活に打ち勝ち、こうして旅ができたことに感激がわきおこっていました。

ボランティアによるゲームなど、列車のなかで楽しいひとときを過ぎた患者らは、全体で九時間あまりの旅を終えて午後三時十二分、釧路駅に到着しました。

釧路駅プラットホームで釧路市消防署音楽隊の演奏による熱い歓迎をうけた後、午後六時から市内のホテルで歓迎レセプションが行われました。アイヌの民族舞踊や、日舞など多彩な催しは、長旅の疲れを癒してくれました。

人間性復権の闘いへ

二日目は約八百五十人が参加し、午前中、市内六会場、それぞれの疾病別に二十の分科会が行われました。形式は交流会、講演会、シンポジウムなど様々でしたが、独自の課題について熱のこもった分科会となりました。午後からは釧路市公民館

2

集会場にはあふれんばかりの参加者！



に会場を移動し、昼休みのひとときを「鳥取かさ踊り保存会」の子どもたちによるかさ踊りで、参加者の目を楽しませました。

午後一時から全体集会となり、現地実行委員長などのあいさつの後、

全国で29番目の難病連 宮城県に誕生



全国で29番目の地域難病連として6月28日、宮城県難病団体連絡協議会が結成されました。

加盟団体は6団体、個人加盟を含めると約1300人の組織規模です。

この日の結成大会には、会場に入り切れないほどの患者・家族や来賓など、生まれただばかりの難病連への期待の大きさがうかがえます。なお、JPCからは小林事務局長が出席しお祝いのあいさつをしました。

事務局 〒982 仙台市西多賀郡4-19-1

ありのまま舎内

☎ 022(243)1301

「患者・家族の訴え」として釧路市在住の二人（膠原病・腎臓病）から現状報告があり、会場の涙を誘っていました。伊藤建雄難病連事務局長（JPC幹事）は、「生命の尊厳はどのような人であっても、どこに住もうともその価値に違いはない」などの基調報告を行い、記念講演の後、「偏見や差別、苦しみを体験した私たちの行動が、人間性復権の闘い」につながることを宣言した「集会アピール」や特別決議を採択して集会の幕を閉じました。集会後は釧路湿原を観光し、三日目は、それぞれ再会を誓い合いながら「エトピリカ号」で帰路につきました。北海道難病連の皆さん、ご苦勞様でした。

国民医療総合対策本部が中間報告

—患者・家族の願いとは裏腹

「医療システム、医療構造の抜本改革」をめざして今年一月、厚生省に設置されていた「国民医療総合対策本部」が六月二十六日、「中間報告」をまとめ、発表しました。

これには先にもうさされていた「入院時食費全額患者負担」こそ取り上げられなかったものの、国民の医療と生活に深刻な影響を及ぼす内容となっています。要旨は以下の通りです。

①老人医療を中心に病院を「慢性病院」と「一般病院」に区分し、入院医療、長期入院の制限を図るため病院ごとに「入退院判定委員会」を設置し、退院計画を策定する②大病院における医療では外来を紹介患者のみに制限する③病院給食では、患者が選択できるメニューの導入を図るが、その費用負担のあり方を検討し、外部委託の促進をする④入院医療、長期入院の制限、在宅医療の促進などを図るため、診療報酬のあり方につ

いて全面的な「合理化」を打ち出すなど、患者・家族の願いとは裏腹に、患者の自己負担の強化、医療供給体制の縮小、国庫負担の削減などが、この「中間報告」の基調となっています。

「中間報告」が出されると同時に、日本医師会など医療関係三団体が「単なる医療費だけの視点から安易な改革が行われるならゆゆしき問題」と批判したのをはじめ、医療関係団体は一斉に批判的な声明を発表しています。六月二十八日付の朝日新聞は、その社説のなかで、「医療費削減にのみ熱中すると取り返しのつかないことになる」と警告するなど、マスコミ各社も批判的な論調を展開しています。

このまま「中間報告」が政策に反映されれば、患者はますます医療から遠ざけられる結果になりかねません。私たちは、真に国民本位の医療をめざして、必要な意志表示をしなければなりません。

医療・福祉のうごき

7月
▽10日 厚生省が発表した「六十一年度簡易生命表」では、日本人の平均寿命は男七五・二三歳、女八〇・九歳。これは男女とも世界一。

▽16日 厚生省は病院の「差額ベッド」の実態を調べた「六十一年度室料差額徴収状況調査結果」を発表。それによると総病床数に占める差額ベッドの割合は一〇・六%。

▽19日 健康保険組合連合会が発表した昨年度の「高額医療実態調査」によると、一カ月に二百万円以上かった「高額医療」は史上最高の九千六百十六件。

▽21日 日本弁護士連合会は臨時国会に提出されているエイズ予防法案に対して、「抜本的な見直しが必要」との意見書をまと

め厚生省・国会に提出した。

▽31日 政府は六十三年度予算の概算要求基準を正式に決定。年金や医療費など社会保障関係費は四千四百億円で、年金増額は昨年を下回る要求率に抑え込まれた。

8月
▽5日 厚生省は九月から国立療養所松戸病院に国立療養所として初の「ホスピス病棟」を開設する。末期ガン患者の看護を重点に置いた医療を行う。ベッド数は二十床。

▽9日 社会保障研究所が発表した六十年度の医療、年金、生活保護などに使われた社会保障給付費総額は三十五兆六千四百六十八億円、人口の高齢化により「年金」の給付額が急増、五割に迫る勢い。

▽13日 厚生省のまとめによると六十一年度にかかった医療保険の医療費総額は十四兆七千五百億円で、前年度に比べ七・四%増となった。

7・8月

社会保障給付費

国際労働機関（ILO）が、定めた社会保障の基準によって範囲が定められています。「医療」は自己負担分を除いた医療保険の医療給付費や、公費負担医療費など。

「年金」は公的年金、恩給、労災保険の年金給付など。「その他」は生活保護、児童手当、医療保険の傷病手当、雇用保険の失業給付などが含まれます。給付額は国民一人当りにすると二十九万四千五百円になります。

がんばれ患者会

こんな活動しています

9団体が加盟

昭和五十四年十月、十三団体でスタートした私たち宮崎県難病連には現在、「腎臓病」「腎炎・ネフローゼ児」「自閉症・情緒障害児者」「心臓病児」「リウマチ」「ヘモフィリア」「筋無力症」「筋ジストロフィー」「パーキンソン病」の九団体千二百余名が加盟しています。患者・家族がかかえている共通の問題について考え、共通の願いを達成するために地道に活動しています。

主な活動

年間計画をたてて、定例の幹事会をもちながら活動を進めています。八月……県知事陳情
この時に知事に提出する陳情書をもとに関係各部課との交渉日時が設定され、九月頃交渉をもちます。

九月……難病患者の福祉をすすめるつどい
行政や広く一般への啓蒙・アピールをめざして、「体験発表(各団体)」「現状と対策(行政側)」「実態と問題点(難病連)」などのパネラーの発表と質疑・討論形式で行っています。

十一月……国会請願署名・街頭相談

年間計画のもとに活動

日患協の呼びかけに応じて宮崎市内のメインストリートで行う署名集めの時に相談を受けたり、チラシを配布したりします。

二月……福祉医療講演会
会員相互の研さん、研修のためと、一般・報道へのアピールのため、できるだけタイムリーな企画をたてて多くの参加者と心がけています。

以上が主な活動ですが、そのほか、

か、会員相互の親睦を図り療養の糧とするため機関紙を年三回発行しています。

テレホンカード販売

県の補助金年間四十万円と社会福祉基金三十万円が主な財源なので、いずこも同じ我々も資金不足に悩んでいます。

初めての試みとして、今はやりのテレホンカードの作製と販売というアイデアが出され、目下計画

宮崎県難病連

実行中です。近日中にカードができあがる予定で、スムーズに販売が進むよう願っています。

行政への働きかけ

補助金増額、事務局を公的機関に開設すること、相談事業を公費で行うことなど行政への働きかけと、一般への啓蒙活動に特に力を入れて一回頑張っていくつもり

です。

日患協・地難連の皆さん、宮崎県難病連をよろしくお願ひします。

事務局 千八八〇 宮崎県宮崎市

本郷北方二二二二二

谷口紘一方

電話 〇九八五五一一七四九

六





秋の闘いは社会との闘い

低肺機能グループ 河合 清

無理を承知で退院

昭和十六年に両側湿性胸膜炎で陸軍病院へ入ってから、病名はつぎつぎに肺結核、腰椎カリエス、腎臓炎とふえて、昭和三十一年まで十六年間病院生活が続いた。二十歳から三十六歳までである。そのほとんどは衰弱して腰がぬげ、寝たきりの日々であった。

退院したのも、決して目出たく全治という訳でなく、父の病氣退職などいろいろな事情が絡んでのことである。退院後半月余りで父が死んだ。世間慣れしていない身で微熱を出しながら葬儀をすまずと、早速食うために就職しなければならぬ。死んだ父のコネで既製服の製造卸の会社へもぐりこんだ。ここに約十五年いた。最初の頃は屋はコルセットをつけて勤め、夜は石膏のギブスで眠る生活だったし、終りの頃は尿中蛋白一、〇〇〇ミリ、腎機能健常者の三分の一

といった具合であったのだ。

妻と本屋を開店

昭和四十七年、ついにダウンして四カ月病欠の末、思い切つて会社勤めをやめた。だが中学三年を頭に小学三年生まで、三人の子のことを考えると、己れに鞭打つて何か収入の道を計らねばならない。それに、その年の暮にメラノーマ（黒色腫）の手術をした。症状は軽かったとはいえ、やはり癌には違いないのである。妻に手伝ってもらえる仕事で、私に万一のことがあったらと、妻で出来る仕事として小さな本屋を始めた。

本屋は十三年間続けた。しかし、老化とともに肺活量が急に減り出し、坂や段階を上ると息が切れる。丘の上の住居から店まで約千六百歩だが、行きはくんだりでなんとか歩けるが、帰りがゆるやかな昇りで喘ぎ喘ぎ歩くのだが、途中で何

病氣なんかに負けないぞ!

度も休まなければ帰りつげなくなつた。

私はもともとカリエスの流注膿瘍の瘢痕癒着で、右下肢不自由身体障害者四級だが、六十歳をすぎたから、よく転ぶようになった。

昭和六十年十二月、店の二階からころげ落ち約二週間痛目目をしたが、翌正月四日には路上で転倒、左手首骨折で入院する破目になった。私は転びなれていふからと言っていたが遂に骨折したので。限界だと決心した。幸い二人の娘も結婚しているし店を開いたときに小学三年生だった長男も、大学を卒業して本屋をやりたいたいという。私は入院を境に商売をリタイヤした。しかし、人に誘われてももうゲートボールをする体力さえない。

「低肺」の運動へ

けれども、私は自分の人生が終つたとは思っていない。五、六年前から「低肺」の運動を友人といつしよに始めている。親しかった友人の死をきっかけに、自分の苦しく長い経験からやむにやまれず

やり出した行動である。おかげで在宅酸素療法の健保適用や、保健所での呼吸器教室の自治体における実施、「全低肺」全国組織結成など成果はあがつている。しかし「低肺ホーム」の設立など、やるべき課題はまだ多い。フォローしていく問題も山積している。

そもそも私の病歴は、私と結核菌との遭遇にだけあるのだろうか。あの戦争さえなかったら、第一乙種現役編入といった無茶な兵営生活の強制さえなかったら、私は金輪際兵隊にならなかつたらうし、病氣にもならなかつたのではないか。戦中戦後の窮乏と混乱、その他もろもろの社会的状況に、常に私と私の病氣は左右され、振り回されてきた。

私の闘いは、病氣との闘いであるとともに、社会との闘いでもある。私と云えないだろうか。殊に呼吸機能障害三級、六十七歳になつた今では、むしろ病氣と仲よく共存しながら、命と健康を守るために、それを阻害するものと闘うところが、私の余生を豊かにするのはなからうか。

JPCの活動

B型肝炎の 感染防止策を早く

全肝協・JPCが大臣要請

本年七月、三重大学付属病院で医師二人が劇症肝炎で死亡し、過去にも相当数の医療従事者が死亡していることが報道されました。

これは多くの犠牲のもとで七年前に厚生省がまとめた「B型肝炎の院内感染防止対策」が徹底されていないことを示し、また「エイズより怖いB型肝炎」などと一部のマスコミによる興味本位の報道は、肝炎患者、ウィルスキャリアへの人権侵害をも



大臣に要望する全肝協などの代表

たらしつつあります。

そこで、肝炎対策に責任をもつ厚生省の立場は重要と、全肝協、JPC、日本医労連の代表ら九人が八月十八日、厚生大臣に現状を訴え、肝炎対策の充実を求めた要望書を提出しました。

この日要望したのは、①患者・医療従事者へのウィルス感染防止の徹底と民間病院も含め、B型肝炎ワクチン投与の国の費用分担②感染の危険のある施設における感染防止対策の徹底③正しい知識の普及④医療費公費負担の対象拡大⑤ウィルス肝炎の治療法の研究開発など総合的な施策の実施、の五項目です。

これに対し、斉藤厚生大臣は「正しい知識の普及のためパンフレットを作成する」「今後はウィルスの発見されていない非A非B型肝炎について重点的に研究をすすめる」ことを約束しました。また、医療機関でのワクチン投与については「設立者が責任を持つ」との考え方から、国が設立者である国立病院と国立大学病院の職員へのワクチン接種を来年度から国費で実施することを決めていますが、民間病院には都道府県を通じて通知をただただで、効果はあまり期待できません。今後の対応がせまられます。

6

代表らはこの後、厚生省結核難病感染症課を訪れ、同様の申し入れを行いました。

JPC、全肝協では今後、感染の予防、治療の研究開発、医療費の保障を含む総合対策の確立をめざす運動の強化をめざしています。

87年度活動方針の 具体化へ

JPC第7回幹事会

JPCは七月十六日、東京・赤坂の苗壮で第七回幹事会を開催しました。

第二回総会後、はじめて開かれたこの幹事会では、①国会請願の取り組みについて、請願項目の確認と、全国一斉街頭署名を九月二十七日に行うこと②全国交流会を福島県難病連の協力で、十一月二十一日、二十二日の両日に福島県二本松市の岳温泉で行うこと③厚生省などへの要請を七月から八月にかけて行うこと④総会で日患同盟から提案された、公費医療制度のひきしめに対する反対運動を、内部障害者の概念確立の研究とあわせて行うことを確認するなど、総会の活動方針を具体化するかたちでの熱心な討論が行われました。

県単事業

◆重度心身障害児者医療費助成事業
【対象】①身体障害者手帳一級、二級の人②特別児童扶養手当二級の受給資格者。

【支給内容】医療費の自己負担金（保険診療分）、老人医療の自己負担額を助成、「高額療養費」や「家族療養付加金」など、各種保険制度からの給付金がある場合は、その額を差し引いた残額を助成。

静岡県

【所得制限】障害児福祉手当準用。

◆特定疾患治療研究事業

【対象】（県指定疾患）

橋本病、下垂体機能障害、

突発性難聴、血友病。

【支給内容】社会保険各法の規定により、保険者が

が負担すべき額を除いた自己負担額（血友病は、特定疾病の対象により、月一万円を限度とする）。

◆乳幼児長期疾患医療費助成事業

【対象】六歳以下の未就学児で十五日以上入院の者（所得税非課税世帯）
【支給内容】保険診療の自己負担金を助成。

【所得制限】所得税課税世帯は所得税額により、一部負担あり（更生医療費用徴収基準額表と似たもの）。



「肥大型」にも公費を

岡田 杉本 春江

私は岡山県難病連絡協議会の「幸の会（稀少難病）」の会長杉本です。現在四十歳ですが、昭和四十年の発病で四十三年には岡山市の心臓病センターで冠不全と診断されました。病状がよくありませんので昭和五十九年八月二十一日に他の病院で検査してもらったところ、特発性心筋症（肥大型）といわれ鳥取医大の教授を紹介されました。そこでも同じ診断でした。

岡山市に大学病院がありますが、循環器部門がなかったため第一内科の教授に「米子市の医大の病院へ通いなさい」といわれ、私は米子市の内科に通いました。お陰で身体の方は心不全を起していますが着着いています。特発性心筋症は、特定疾患治療研究の中に入れてありますが、「うつ血型」だけで「肥大型」は公

費負担の対象にはなっていないので難病連の杉原会長さんや国会議員の先生にお願いして、公費負担になるべく運動しているところです。

今のところ「幸の会」は一人ですが、全国には私と同じ特発性心筋症の肥大型の人も居られると思いますので連絡して下さい。一緒に頑張ろうではありませんか。

少しよくなったら子供と二人で暮していくことのできる日を楽しみにしています。一日も早く特定疾患の公費負担の対象にと願っています。△連絡先 岡山市湊四七四番地1-V

病院の思い出

兵庫 屋山 量雄

スーッと風が流れ込んで来るような感じで、病院特有なざわめきが耳から入り込んできた。アア朝なんだなあ。だんだんと目ざめてくるにつれて、何だか一寸おかしい様子に気がついた。まぶしくて目を開けていられない。一寸見上げた天井が約一か月馴染んだ病室の天井ではない。上を向いて寝ているのに両腕とも動かない。指先はモソモソ動く感じ。病名は筋無力症とはいえ、今までこんなにひどく全身脱力を起した事はなかったのに。耳に入ってくるコショコショと話し合っている声に聞

き覚えがある。二、三人ではない様子。兄や弟だけでなく、遠くで暮している息子の声。休みでもないにおかしいなあ。今日は何日かわからない。声を出して呼びたいのに声が出ない。頭がだんだんはつきりしてきたのに。足も上らない。これは大変。どうしたら用を聞いてもらえるのか。起きたぞ、一寸来て、一人でいから。誰も来てくれない。完全に忘れられてしまった。これは困った。やっとかけ具から指先が出た。おいで、おいでをする。家内の声で「あッ指が動いている。気がついたわ」。声をふり絞っても蚊の鳴くような声で「どうしたの」と聞く。すると朗らかな声で「あなたは三昼夜意識不明で、駄目かなと皆が来てくれているのよ」という。それを聞いて眠りの世界に逆もどりしてしまった。今から八年前の話です。生きていてよかったです。

会員との会話で

秋田 佐藤 範子

私は心臓病の子供を持つ母親として、「全国心臓病の子供を守る会」及び「秋田難病連」に加盟しています。私達のような親会員は、自らは普通の健康状態の人が多く、患者としてのつらさは子供を通してしかわからないというのが現状です。それでも親心として、患者である子供が、ハンディを背負いながらも生きていかなければならない社会が将来にわたって医療面、福祉面ともに充実しているようにと願う心は同じです。

先日、難病連の方との会話の中で見落していた考えのあることに気がつきました。この方は病気とのつきあいなが長いゆえにそのつらさは身にしみているが、その中で自分達に今一番やっていくべきことは、医療や福祉の充実を訴えることは勿論だが、病気の予防の大切さを患者自身が訴えていかなければならないということでした。原因不明の難病とはいうものの、世の中は食料や環境も汚染され病気と無縁とはいえませんが、加えて個人の不摂生も病気を生む原因となることでしょう。

ひとつの病気が解明されたかと思うと人間の英知に挑戦するかのようにな次々と難病・奇病が発生してくるという医師の意見もあります。病気との闘いに明け暮れていると、病気の予防など考える余裕すらありませんが、苦しみを味わった患者でなければ切実に感じることでできない貴重な意見であると再発見することができた会話でした。

伝言板

協会会員募集中

前号で募集しました「特典付協力会員」の申し込みは「心臓病の子供を守る会」「日患同盟」を中心に二十五名、五十二口です(八月二十日現在)。なかには衆議院議員尾身幸次先生からの申し込みもありました。

ひき続き財政的にJPCを支えることを通じて、JPCの運動を支援して下さる方々に協力会員となつてくださるようお願いいたします。またご家族、ご友人などにも加入をおすすめください。

■会費 一口二千元(年間) 何口でも加入できます ■申込方法 申込みハガキはJPC事務局、加盟団体事務局にあります ■特典 一定数の加入者で抽選によりペアで海外研修 ■抽選 全国交流集会で行います。

JPC花火販売状況

本年六月から実施しているJPC花火販売は、八月二十一日現在で、福島、秋田、大阪、岐阜、滋

賀の各難病連と心臓病の子供を守る会が取り組み、二百八十四万九千五百円の売り上げがありました。このうち、JPCには一定額が寄付金として業者から贈られ、そのなかから各取り組み団体に売り上げ数に応じた額を還元します。取り組み団体の皆様、ご苦勞様でした。

福島で全国交流集会

今年の「日本の医療・福祉と患者運動を考える全国交流集会」は、「地域医療の確立」をテーマに十一月二十一日、二十二日の両日、福島県二本松市の岳温泉で開催します。

参加申込みの方法、プログラムなどは詳細が決まり次第、改めて加盟団体を通じるなどしてお知らせします。

今号から低料三種に

「JPCの仲間」は今号から「低料三種郵便物」の扱いを受けられることになりました。一部八円で發送できますが、そのためには一定の手続きが必要です。詳細はJPC事務局までご連絡ください。

団体通信

▼全患協が厚生省に申し入れ

六月に起きた東京・東村山市の松寿園火災による惨事を重く見て、厚生省の関係各課に対し、ハンセン療養所の防災に万全の対策を講じるよう文書で申し入れをしました。

▼ペーチェット病友の会大阪支部が記念誌発行

支部結成十周年を記念して「ペーチェットなんかに負けへんで」を出版しました。

これ一冊で多彩な症状を持つペーチェット病のすべてがわかるほどに、各科の専門医の協力を得て最新の情報を満載しています。また、患者・家族の体験記や、医療・福祉関係者、難病、障害者に役立つ資料を掲載しています。

▼大阪難病連が「道づれはいつも希望」を発行

「生きる」をテーマに五十八年、五十九年、六十年の総会の記念講演の全記録を一冊の本にしました。三人の先生の体験に基づいたすばらしい講演記録です。一冊千円。申し込みは大阪難病連 ☎〇六一六五二一一三二一八。

▼滋賀難病連が事務所開設

念願の事務局を六月に開設しました。滋賀県腎臓病患者連絡協議会の事務局と同じ場所で、「生命と暮し

を守る」ための拠点として頑張っています。

住所 大津市中央二一四一二八 錦ビル三〇五号 ☎〇七七五二二一〇三一一

▼全腎協がテレホンカードを販売

今年で七回目をむかえる「腎バンク登録全国一斉街頭キャンペーン」は厚生省が行う「腎移植推進月間」にあわせて十月四日に実施すること準備が進められています。

テレホンカードは献腎思想普及のために健康者に訴えて買ってもらう運動として二万枚が作成されました。

▼秋田難病連が療育相談会を開催

七月十九日鹿角市で、今年三年目をむかえた療育相談会が開かれ、五十一人の相談者が医療、生活面での専門的指導を受けました。相談の中には、手帳の等級が上らないか、福祉の諸制度の対象にならないかなどがありました。

【お詫びと訂正】前号のこの欄で「全交災が労災職業病ニュースを発行」とありましたが、発行は全国労災職業病対策実行委員会の誤りでした。訂正いたします。



日一日と秋らしくなってきましたが、まだ残暑も厳しいようです。今年の秋は「読書の秋」かな？ 活字を見ると眠くなる私ですが…… (佐藤)

発行 全日本障害者団体定期刊行物協会 頒価三百円 東京都世田谷区砧6-26-21

目 次

○ 患者の願いを予算に	61
○ 患者の希望をのせて	62
○ 国民医療総合対策本部が中間報告	63
○ 医療・福祉のうごき	63
○ がんばれ患者会 こんな活動してます	64
○ 病気なんかには負けないぞ！	65
○ JPCの活動	66
○ たよりの交差点	67
○ 伝言板 団体通信	68